

特別講演

**(過疎＋高齢＋半島) × 大地震
＝能登半島地震**

金田直之
Naoyuki KANEDA

石川県珠洲市 副市長

プロフィール



1980年 金沢大学工学部建設工学科卒
1982年 珠洲市役所入庁（建設課）
2009年 企画財政課長
（兼務）自然共生室長、
奥能登国際芸術祭推進室長
2022年 退職（3月）
珠洲市副市長（6月～）

1. (過疎＋高齢＋半島) × 大地震＝能登半島地震

(1) 被害の概要

- ①能登半島最先端に位置する珠洲市
市勢、これまでの取組み（GIAHS、芸術祭、大学連携、引退競走馬など）
- ②被害の概要
死傷者、避難所（者）、倒壊家屋、社会インフラ被害、津波被害

(2) 発災直後に困ったこと

- ①すべてが「想定外」の規模
避難所数、避難者数、必要物資量、「停電、断水、通行不可、孤立、通信不可」
- ②命の「水」
浄水場の被災が甚大
- ③生活弱者（高齢者、幼児）の避難
1.5次、2次避難

(3) 物的、人的、技術的支援

- ①支援物資
 - ②対口支援（国・県・市町村）
 - ③専門ボランティアの機動力
（医療系、福祉系、技術系など）
- } 情報共有の重要性実感
（関係者の全体会議）

(4) 珠洲市の主要な社会資本の現状

上下水道（浄水場、処理場）学校（9小学校、4中学校）、公民館（10地区）、漁港など

(5) 効果的だった「先端技術」の支援

簡易式上水プラントの導入、循環式シャワー、手洗いキット、ポータブル通信機器（スターリンク）

(6) 復興まちづくり計画

- ・基本方針（案）
- ・社会インフラ復旧の方針（原形復旧、防災対策、費用対効果、進む過疎化、先端技術、DX）

(7) 最重要課題の「住まいの確保」

- （市民ニーズ）上下水道→仮設住宅→復興住宅
⇒社会インフラ復旧方針に影響
- ・高齢化率が高い市内全体のニーズ把握⇒集落形態の変化（人口減も伴う）
 - ・「これからのまちの形」の第1歩となる“公費解体”

(8) 結び

- ・過疎高齢、条件不利地域での災害対応の困難さ（特異性）を痛感
- ・能登半島地震の復旧復興の歩みが今後の災害対応の一助となることを願う